

CUTTING EDGE

カッティングエッジ

76期事業のご報告

平成26年4月1日～平成27年3月31日

社長メッセージ



半導体や電子部品の搭載製品の拡大や円安の進展等が主要因となり、売上高・営業利益ともに過去最高を更新しました。今後も、「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」の更なる進化や、激しい市況の変化に柔軟に対応できる組織力の強化に努めてまいります。

事業環境・業績

2014年度においては、スマートフォンを中心に幅広いアプリケーションで需要が拡大したことを受け、当社製品の出荷は堅調に推移したことから、売上高は2期連続で過去最高を更新しました。

また、多様化するお客様の加工ニーズに対応するため高水準の研究開発費投資を行ったものの、円安の進展や高付加価値製品の売上増加などにより粗利率が大きく改善し、営業利益は14期ぶりの過去最高益更新となりました。

なお株主様への還元につきましては従来の

配当政策に基づき、業績連動型の配当に加えて、大型設備投資の一服により生まれた余剰資金の一部を、初の追加配当[※]として当期末配当に上乗せしました。これにより1株当たりの配当金は追加配当を含め年間160円とさせていただきます。

今後の見通し

今後は、スマートフォンの高機能化や更なる需要の拡大に加え、自動車・ウェアラブルデバイスなど、半導体・電子部品の用途の拡大が見込まれることから、当社においても2015年度上

期は様々なアプリケーションニーズの拡がりを見込んで期待しております。

このように多様化するニーズに対し、高度なKiru・Kezuru・Migaku技術を素早くお客様に提供することで収益性向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

[※]追加配当について

期末時点で赤字の場合を除き、配当及び法人税支払い後の現預金残高が予定必要資金額を超過した場合は、業績連動分に加え、超過金額の3分の1を目処に配当に上乗せいたします

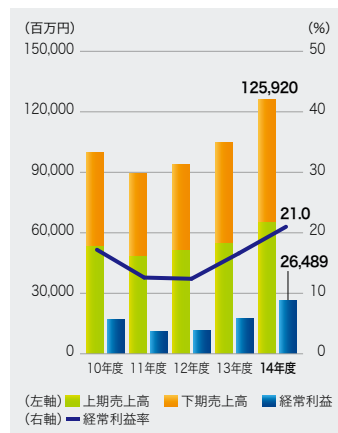
2015年6月

代表取締役社長 関家一馬

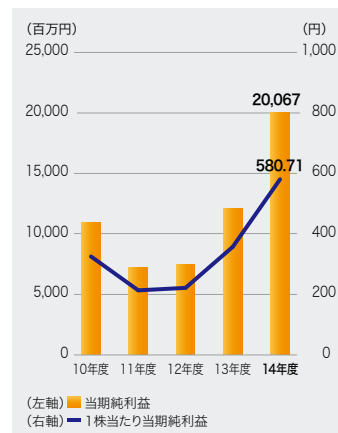


財務ハイライト

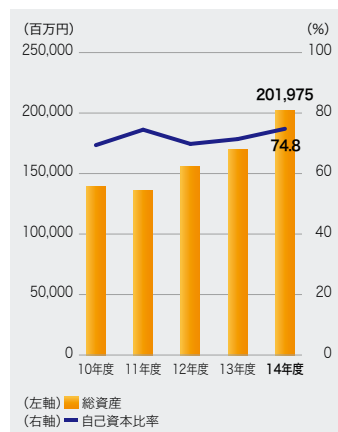
売上高・経常利益・経常利益率



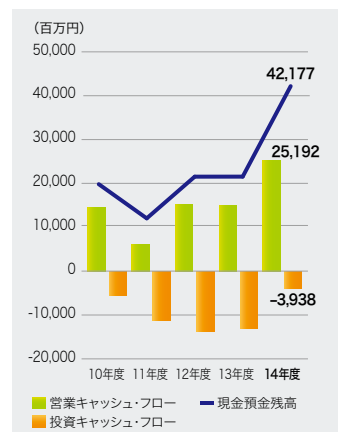
当期純利益・1株当たり当期純利益



総資産・自己資本比率



キャッシュ・フロー



当期の概況

当期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)においては、モバイル機器の需要拡大に伴い半導体・電子部品メーカ各社は設備投資を積極的に実施しました。そのような中、当社の精密加工装置はフラッシュメモリなどのIC向け、電子部品向け、LEDパッケージ向けなど幅広いアプリケーションで需要が拡大したことにより、売上高は大きく伸長しました。また、消耗品である精密加工ツールは、顧客の高い設備稼働率と為替の影響もあり、数量・売上高共に堅調に推移しました。その結果、連結売上高は、2期連続で過去最高を更新しました。利益については、積極的な研究開発により販売管理費が増加しましたが、製品構成や為替の影響などによりGP率が大きく改善したことから、営業利益は過去最高を更新しました。

以上の結果、当期の業績は、売上高1,259億20百万円(前年同期比20.0%増)、営業利益267億60百万円(前年同期比54.2%増)、経常利益264億89百万円(前年同期比51.8%増)、純利益200億67百万円(前年同期比66.0%増)となりました。

■財政状態

当期末の総資産は、前期末と比べ318億13百万円増加し、2,019億75百万円となりました。これは、主にたな卸資産や有形固定資産に加え、現預金が大幅に増加したためです。

負債は、前期末と比べ33億51百万円増加し、500億56百万円となりました。これは、転換社債を期中に全て

株式に転換した一方、仕入債務や未払法人税が増加したためです。純資産は、前期末と比べ284億62百万円増加し、1,519億18百万円となり、自己資本比率は前期末比3.4ポイント増となる74.8%となりました。

■キャッシュ・フロー

営業活動では251億92百万円の資金増加、投資活動では39億38百万円の資金減少だったことからフリー・キャッシュ・フローは212億54百万円の資金増加となりました。これは、営業活動による資金が大幅に増加したほか、投資活動において子会社株式の売却などの収入があったためです。財務活動では、主に配当金の支払によって14億67百万円の資金減少となりました。

これらの結果、当期末の資金残高は421億77百万円となりました。

上半期の連結業績予想

スマートフォンなどモバイル機器関連需要は旺盛で、半導体メーカ各社からの積極的な設備投資を見込んでおります。上半期の売上高、利益共に過去最高を更新する予定です。配当については1株当たり94円を見込んでおります。

※今年度より上半期(4-9月)の業績予想開示に変更

2016年3月期上半期

(金額の単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
71,100	18,400	18,500	13,300	372.54円



ディスコの企業理念



「高度な**Kiru・Kezuru・Migaku**技術によって
遠い科学を身近な快適につなぐ」

3つのコア技術を深めることで、ディスコは産業と暮らしに貢献していきます。

「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」とは

ディスコのビジネステーマを指しています。人類に欠かせない普遍的な技術である「切る」「削る」「磨く」という事業領域において、ディスコは世界のオンリーワン企業でありたいと考えています。あえてローマ字で表記しているのは、これらの分野でディスコの技術が世界標準となり、日本語でそのまま通用するようなレベルを目指すという、強い思いが込められているからです。

「遠い科学を身近な快適につなぐ」とは

ディスコの社会的使命(ミッション)を意味しています。日々進歩していく科学技術を、ディスコの「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」によって、人々の暮らしの豊かさや快適さに帰結させていきたい、という考えを表現しています。

ディスコが追い求める成長とは

企業の成長をどのように定義するかによって、経営の方向性は大きく変わります。ディスコの「成長」とは売上やシェア、規模の拡大などに依らず、2つの基準によって評価されています。ひとつはミッションの実現度が高まり、社会により大きく貢献ができているか、もうひとつはお客様・従業員・サプライヤ・株主など、すべてのステークホルダとの価値交換性が向上しているか、です。